（議事概要）

第3回 徳島県観光スポーツ文化部指定管理候補者選定委員会

日時：令和8年10月23日（金）9時15分～11時50分

場所：県庁11階　審問室

申請者1　提案説明

質疑応答

（委員）

ファミリー層だけでなく、若者やシニア世代など新たな顧客を獲得するという話があったが、アクセスが難しい場所にある中、どうしてもファミリー層が多くなるイメージがあるが、アクセスのしやすさについて考えていることがあるか。

（申請者1）

中学生・高校生になるとどうしても物理的・距離的に難しいと考えているが、ちょっと不便な中でも将来的にも来てもらえるように、また、イベントの時には予算の関係もあるが、臨時バスなどを前向きに考えていきたい。また、中高生や大学生が学校行事や授業、ワークショップなど施設に関わる機会を通じて触れていただく。ファミリー層でも小さなお子さまだけでなく、年長の子どもが来られるようなコンテンツやイベントづくりもポイントと考えており、課題として重点的に取り組む。

（委員）

事業計画書における協力法人一覧において、施設管理に関する協力法人の記載があまりないが、県外企業ということもあり、大丈夫かなというところを確認したい。また、駐車場が遠いという声が利用者から聞こえていると思うが、特に雨の日に駐車場から濡れて行かないといけないというネックがあり、改善点や駐車場について何か考えていることはあるか。

（申請者1）

施設の保守点検等については、事前に特定企業を約束するのではなく、地元企業に見積もり合わせを行い、その際にはしっかりと資格や技術を精査した上でコストを抑制しやすいところへ発注する方針である。なお、特殊なプラネタリウムについては、専門メーカーに声がけし、アドバイザリーを計画している。
駐車場問題については、ハード面については、今後のリニューアルに向けた協議等で提案しつつ、ソフト面として傘の貸し出しなどお客様の声に応えていきたい。

（委員）

科学館の運営実績、または科学系イベントの実績があれば伺いたい。

（申請者1）
大型の科学館の運営実績はないが、指定管理事業の中で公共の学習展示施設における保守点検やインストラクター業務の実績がある。また、キャンプ場と天文台公園（指定管理施設）において、天体観察イベントなどのノウハウを持つ従業員もおり、JAXAとコラボしたイベント実績もある。
（委員）
吉野川めぐりのような機械を使ったものに利用者を乗せて運行する業務や機械の点検について経験はあるか。
（申請者1）
ゴーカートやチューチュートレインなどは、人と接触する可能性も高く、吉野川めぐりのような隔離されたところは、一般のお客様は入れないので、日々の保守点検、メーカーの点検項目をしっかりやっていくのが非常に大切であると考えている。吉野川めぐりが復活すれば、メーカーに聞きながらしっかりやっていく。そうした遊具関係のメーカーとも付き合いがあり、専用のマニュアルを作成して事故のないように進める。自社施設では、観覧車やメリーゴーランドなどがあり、機械や遊具の点検ノウハウがある。
（委員）
年間イベントの計画が記載されており、いろいろなところで施設運営をされているが、同じイベントでも地域差があると考えられる。徳島だからこそ、これがいけるのではないかみたいなところがあれば教えていただきたい。
（申請者1）
県のリニューアル基本構想のアンケートを見ていると、スポーツへの関心の高さがうかがえたため、アーバンスポーツフェス等を提案に盛り込んでいる。また、自社施設で実績のある大規模体験型スポーツイベントも誘致できたらと考えている。
（委員）
複数の企業による共同事業体において、具体的にどこが主導してどのように役割を分担するのか。また、県民の期待値がある中、一番の推し、一番期待してほしいというところを教えてほしい。
（申請者1）
業務分担については、個別に分けるのではなく、基本的には一緒にやっていくという考え。A社が代表企業として総務・経理および利用サービス全般、B社が木のおもちゃ美術館の運営、C社がイベント企画を中心としつつ、それぞれに強みを合わせて複合的に連携する。最大の強みは「企画力」であり、新しいものをどんどん取り入れ、いつ行っても何かやっているよねというあすたむらんどにする。音楽やアートにも強いので、そういうイベントも新しく仕掛けたいと考えている。

申請者2　提案説明

質疑応答

（委員）

来場者を増やす中で、メインターゲットは児童を考えているようにお聞きしたが、子どもの数が減少傾向にある中で増やしていくとなると、県外から来てもらうために、知ってもらうことも必要になってくる。発信を広げていくという点で考えがあれば教えてほしい。

（申請者2）

自社媒体のみならず、マルシェ出店者や地域の方々、個人事業主の発信力も強い時代になっており、こうした方々のお力も借りつつ、有料媒体での発信、デジタルや従来媒体での発信をしっかり行う。

（委員）

木のおもちゃ美術館の運営体制をどのように整える予定か。また、力を入れたい点は何か。

（申請者2）

おもちゃ学芸員の資格を有するスタッフがおり、既存のいるメンバーを中心に配属する。木育だけで終わらせず、また、科学館とおもちゃ美術館を別個ではなく、一体的な教育施設として運営する。

最も力を入れる取り組みは「自主事業」である。県費を抑えて運営していくためには、適正な受益者負担を得ながら、施設の魅力を確保することが必要だと考える。安かろう悪かろうで県外からもなかなか来ていただけるものではない。いいものをご用意すれば、関西の方から多くの方が来ていただけると考えている。あすたむらんどに来ていただくことによって、徳島の自然や魅力を伝え、さらに、徳島県に何度も足を運んでいただくような機会を設けたい。その中でも県内の子どもたちに、徳島に誇れる科学技術がこれだけあるということも知られていない現状があるので、藍染めやLED，水素など、さらにこうした所に力を入れ、県外にもアピールしたうえで、徳島の子どもたちにも関心を持っていただけるような取り組みを進める。

（委員）

これまでの 20 年間で来場者数を維持・増加させることができた主要因は何か。また、リニューアルによりコンテンツが充実していく中で、それも知っていただかないと来場に繋がらないと思うが、今後の発信で力を入れたい点は何か。

（申請者2）

一番の要因は、年間の閑散期（12 月）を最大の繁忙期へと転換させた冬季イルミネーション事業の定着である。2 カ月で 1.5 万人から 2 万人のところを 7～9 万人に育てあげられたところが大きい。また、地域の方々との連携や協賛事業の実施、全国的に話題性の高いイベント企画展等を導入した結果だったと考える。

リニューアルに向けては、風車の丘という見晴らしの良い場所に、例えば今回、写真映えするフォトスポットの設置を提案しているが、口コミを広げ県外誘客にもつながる可能性を秘めており、そうしたところに着手していきたい。
あと、利用者数について補足させていただく。あすたむらんどが素晴らしい施設であるということを前提として申し上げると、施設を引き継いだ当時、広報に力を入れた。団体利用が増えたということについても、県内、関西方面、中国地方すべて営業に回っており、そういう営業活動の元で、今があると考えている。
（委員）
収益を少しでもという話の中で、園内交通という小さいお子さんやお年寄りが移動する部分に、例えば100円で乗れる乗り物だとか、小さなお金をとることは付加価値がつくということであり、何か面白いことにチャレンジしていただければと思う。
（申請者2）
公共施設における料金収受についてこれまでは慎重な面もあったが、今後のリニューアルを見据え、収益構造を見直そうと考えている。60万人を集められる施設に育てていきたい。

申請者3　提案説明

質疑応答
（委員）
これまでの運営における大規模な集客実績はあるか。
（申請者3）
単体施設で年間 40 万人超、大会イベントで数千人規模の集客実績がある。このあたりの知見はあすたむらんどの運営に大きく活かせると考えている。植栽の芝生などの管理技術を有している。自社グループに土木会社などもあり、土木系の工事を担うこともできるほか、他社に依頼する場合も適正な価格での発注できると考えている。
また、科学館の指定管理を10年間受託しており、1日あたり、イベントにもよるが1万人規模の来館者を迎える経験もある。
（委員）
子どもの仕事体験など、多様なイベント企画を提案されており、人件費がかかってくることが想定されるが、人件費についてどのように考えているか。
（申請者3）
イベントの実施については、自社開催に加え、協力企業が保有するワークショップ等のプログラムを活用することを想定しており、謝礼金の形で、協力企業への人件費、資材等実費負担が必要になると考える。これまでの経験則をもとに、必要な経費を事業計画書の収支予算に盛り込んでいる。

（委員）
木のおもちゃ美術館について、どのような体制で運営する予定か。
（申請者3）
専門性の高い人材を配置し、現指定管理者のスタッフの引き継ぎも進める。人材について多くの方を引き受けたいということは、あすたむらんどの方も含めての考えである。
利用促進策として木育パスポートなどにより、定期的に来ていただく仕掛けづくりを考えている。
今までは2つの施設を別の団体が運営しているということであり、一緒になることによって、相乗効果が生まれる。職員を効率的に配置し、そのことで、職員のやりがいも得られると考えている。また木育は農林水産省が奨励している事業であり、当事業体が有する人脈・連携を活かして、関係者の指導を仰ぎながら進めていきたい。
（委員）
アウトドア事業に強いイメージを受けた。キャンプ場、バーベキュー、ドッグラン等のアウトドア関連事業について、具体的な実績はあるか。
（申請者3）
ドッグラン自体は未経験であるが、RV パーク等については自社グループ関連施設での設置・運営実績があり、アウトドアに関する知見を有している。
（委員）
今の子ども科学館は昭和の科学がそのまま残っている珍しい館だと思うが、具体的にどのようなワクワクドキドキをイメージしているのか。
（申請者3）
40年前はああいう形が多く、今、ハンズオンという言い方をしている。最近AIなどのデジタル技術を駆使した展示もあるが、若干、飽き気味になっている。今はやはり、コミュニケーター、人である。人が丁寧に説明する科学館事業をしたいと思っている。
（委員）
科学館に新しさや徳島らしさを加えていくという考えはあるか。
（申請者）
科学だと、総花的なものになってしまう。やはり地元に根差した展示、科学は学問だけではなく企業の力が大事。地元企業の力を借りて展示をリニューアルすることも大事である。そういうことはやるべきだと考えている。

申請者退室後、委員による協議

○　説明を行った3つの申請者の申請内容について、委員同士で協議を行ったところ委員からは、

- 各者から、新規性のある提案がなされている中で、計画の実現性や確実性を見極める必要がある。
- 利用者のニーズをとらえた提案内容となっているかといった観点も重要ではないか。

などの意見があった。

○　意見交換実施後、申請者の提案について、採点表により各委員が採点を実施

○　採点結果を集計・報告し、指定管理候補者が選定された。